

岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科

竹田 真由* 石黒 啓司*[§] 前田 悟司*

I. 本学の沿革と概要

岐阜医療科学大学は国際医学総合技術学院を母体に、2006年に開学しました(表1)。2016年に大学院保健医療学研究科(修士課程)が新設され、この3月に1期生が卒業したばかりです。また、

2018年4月からは看護学科が看護学部となり、2019年には看護学部と助産学専攻科の可見キャンパスへの移転が予定されています。

本学は関市郊外の里山に岐阜医療科学大学のキャンパスがあり、豊かな自然に恵まれた環境です(写真1)。郊外の静かな環境は学業に専念するの

表1 大学の沿革

1973年	国際医学総合技術学院 開校(臨床検査技師科)
1974年	国際医学総合技術学院 診療放射線技師科 開設
1983年	岐阜医療技術短期大学 開学(衛生技術学科・診療放射線技術学科)
1991年	岐阜医療技術短期大学 看護学科 開設
1999年	岐阜医療技術短期大学 専攻科 開設
2006年	岐阜医療科学大学 開学 (保健科学部:衛生技術学科・放射線技術学科・看護学科)
2009年	岐阜医療科学大学 助産学専攻科 開設
2012年	岐阜医療科学大学 保健科学部 衛生技術学科を臨床検査学科に名称変更
2016年	岐阜医療科学大学大学院保健医療学研究科開設

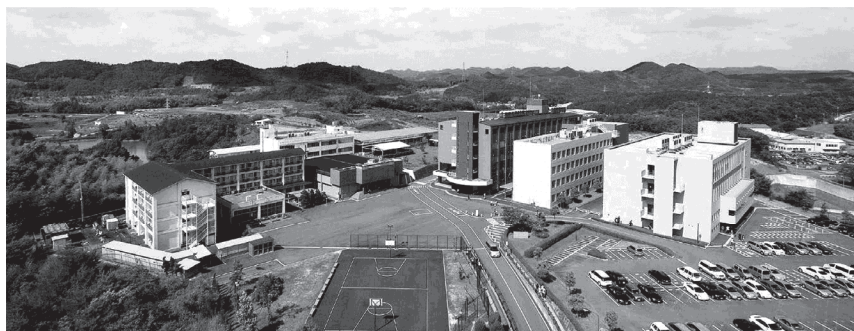


写真1 岐阜医療科学大学

*臨床検査学科

[§]hishiguro@u-gifu-ms.ac.jp

に最適な空間です。建学の精神「技術者たる前によき人間たれ」を基盤に置き、人間性豊かで高度な専門能力を有する医療人育成のため、3つの教育目標を掲げています。建学の精神に示されている「人間性」、日本だけでなく世界を見据えた医療人を旨とする「国際性」、専門外の知識技術にも理解を深め合う「学際性」です。

II. 本学の特徴

まずは、学生のキャンパスカレンダー(表2)に沿って、イベントの一部をご紹介します。

1. 1年生研修会

4月に本学へ入学した1年生を対象に研修会を実施しています。2017年度は本学で研修したのち、バスで郡上市へ移動し宿泊型の研修を行いました。夜には「郡上おどり」の実演講習があり、郡上市の文化に触れながら、他学科の学生と交流を深めることができました。近年、このような宿泊型研修を行う大学は少なくなっています。また、入学前からSNSで交流することも増えており、学生同士の繋がりは既に出来上がっているとも考えられます。しかし、これから医療を互いに学び合う者同士が自ら声を発して意思疎通を行うために、食事やワークショップを非日常の空間で行うことは重要な意味を持つと考えています。

2. 2年生・4年生保護者懇談会

4月下旬、2年生と4年生を対象に保護者懇談

会を開催します。本学は各学年2クラス編成であり、各クラスには複数の担任を配置しています。保護者懇談会では、学科教員が保護者および本人と三者で面談を行い、学習状況や生活状況、就職等について話をします。土日に開催することによって保護者の参加数も多く、とくに独り暮らしをしている学生の状況を把握するには良い機会となっています。

3. 岐療祭(学園祭・体育祭)

10月中旬、自治会を中心として岐療祭が開催されます。3日間の開催ですが、初日は関市のスポーツ施設を借りて「体育祭」を行います(写真2)。バレーボールやテニスなどの球技だけに留まらず、陸上競技場を借りて行うリレー競走など、本格的な体育祭です。2017年度は台風のために中止となってしまいましたが、学生が自ら話し合い出場競技を決めるという作業は意外と大変なようで、グループワークの困難さをイベントから学ぶ良い機会でもあったと気付かされました。

紹介したイベントに教員も参加することによって、学生を知る機会を得ることができます。とくに1年生研修会においては、話したこともない学生同士がグループを組むこととなります。学生の会話や行動をより近くで観察しながら、教員も一緒に活動します。そして、本学の特色である「きめ細やかな教育、学生指導によって入学者それぞれに合わせた教育付加価値及び人間性の育成」を

表2 本校のキャンパスカレンダー

4月	入学式	1年生研修会	2・4年生保護者懇談会
5月	学生総会		
6月	オープンキャンパス	1年生施設見学会(岐阜大学附属病院)	
7月	3年生施設見学会(検査センター・岐阜県保健環境研究所)		
8月	オープンキャンパス	夏季休暇	
9月	フィリピン語留学	卒表研究発表	
10月	オープンキャンパス	岐療祭(体育祭・文化祭)	
11月	教育支援センターによる休日の教室開講開始		
12月	国家試験対策合宿 冬期休暇		
1月			
2月	国家試験		
3月	ハワイ短期留学	卒業式	春期休暇



写真2 本学体育祭の集合写真(2016年)



写真3 セラピー犬を用いた研究(2017年)

目指し、学科教員での情報共有を行っていきます。

次に、教育においては「教育支援センター」を設置し、1年生を対象に基礎学力不足を補うため、基礎科目(数学、物理、化学、生物、英語)の導入教育を行っています。また国家試験対策として、各学科が連携し、11月から2月までの期間は休日も教室を開放して教員が常駐して指導を行っています。また、「国際交流センター」ではフィリピンの語学留学とハワイの海外研修を毎年実施しており、「国際性」を身に付けた質の高い医療人

の育成に取り組んでいます。

さらに、本学には「地域連携センター」が設置されており、関市だけでなく岐阜県内での出張講義や健康まつりなどのイベントに参加しています。2017年度は、関市保健センターでの健康チェックをはじめ、岐阜県美濃加茂市の健康フェアなどに参加し、学生が肺機能検査や血管年齢の測定を行いました。また、研究活動の一環として、岐阜県保健環境研究所と岐阜県動物愛護センターの協力でセラピー犬を用いた研究も行っています(写真3)。

III. 本学科の特徴

キャンパスカレンダーにもありますが、本学科では定期的に施設見学会を行っています。まず、1年生では基礎セミナーの一環として岐阜大学医学部附属病院検査部へ見学に行きます。学内で臨床検査技師の業務内容について講義を聞き、実際に検査技師の働く姿を見ることで、自身の将来像をイメージしやすくなります。次に、3年生では食品衛生管理学の一環として、検査センターと岐阜県保健環境研究所へ見学に行きます。この見学によって、学生は臨床検査技師の働く場所が病院だけではないことを実感することになります。3年生は進路を具体的に考え始める時期でもあり、夏休みや春休みを利用して施設見学を希望します。

とくに地元が遠方である場合には、長期休暇を利用した見学を行う必要があり、教員が学生の希望箇所を調査し、見学前には学生毎に事前指導を行っています。4年生になると約2ヵ月の臨地実習を行います。本学の近隣にある病院だけでなく、長野県や静岡県など本学から離れた地方の病院でも実習を行っています。その理由として、本学科の学生は県外出身者が3分の1程度在学しており、できる限り実家から実習に通えるよう実習先の拡大を行うようにしています。

また、国家試験の全員合格を目標として専門科目の教員による補講や、教員が定期的に作成した問題を使って模擬試験を行っています。単位修得のための講義ではないのですが、試験前の学生は積極的に参加しています。前述の教育支援センターにおける休日の教室利用では、本学の中でも臨床検査学科の学生利用率が高い状況であるため、当番制に関わらず、本学科教員はできる限り常駐するようにしています。

さらに、学生生活の一つであるサークル活動に「臨床検査研究部」があり、本学科教員が担当しています。入部後は各検査項目について作業や知識を数か月学び、10月の学園祭から健康チェッ

クのスタッフとして活動することになります。前述の地域連携センターが開催する健康チェックのお手伝いに出かけるだけでなく、オープンキャンパスでの体験コーナーでも積極的に活動しています。講義から学ぶことも大切ですが、サークルの仲間と一緒に活動しながら知識を得ていくことは彼らにとっても楽しい学習となっているようです。

おわりに

学生に本学を選んだ理由を尋ねると、「国家試験合格率の高さ」、「就職率の高さ」が多く挙げられます。大学経営の観点からみても、本学の特性について教員が理解し考えねばならない時代であるのは確かです。しかし、教員はこの特性だけの教育ではなく、「現場で活躍できる臨床検査技師の育成」を目的とすべきだと改めて気付かされました。今回、本学のホームページを何度も閲覧し、学歌を聴きながらホームページを見ることができると、このような機会を与えて頂きましたことに感謝申し上げます。読者の皆様にも本学のホームページを訪問していただけますようお願いいたします。